



長納先生の講話を熱心に聴講する参加者

# 充実の剣道指導者研修会 長納憲二教士八段を講師に日本剣道形・昇段模擬審査

9月4日(日)10時より、加佐コミュニティスポーツセンターにおいて、三木市体育協会主催、本剣道連盟主管の剣道指導者研修会が開催された。参加者は高校生6名と一般会員34名の計40名だった。

本年度の講師は、滝川第二高校剣道部監督、永納憲二教士八段(54歳)。田畑修成人指導部長の司会で研修会は始まり、神澤会長のあいさつの後、田畑氏が講師を紹介したが長納先生の剣歴は、司会者が読み終わるまで相当な時間を要するほど。

ここに抜粋して紹介する。

先生は、大阪生まれ、大阪清風高校卒業後国士舘大学に特待生として入学。500名を数える剣道部で選手として活躍のほか、ブラジルサイパン、アメリカ等海外で模範演武を披露。また、NHKテレビ剣道教室に4年間モデルとして出演。昭和59年滝川第二高校創立、剣道部創部以来本年度33年目に入る。剣道部監督として全国高校総体、国民体育大会に出場。近畿大会2位3回、3位5回、県民大会男女10回優勝の戦績を挙げる。先生自身、全日本東西対抗2回出場、都道府県対抗7回うち3位1回、国民体育大会出場全国教職員大会16回出場優秀選手受賞。全国大会に計30回出場。32歳で剣道七段取得、同年教士称号取得(全国最年少)。46歳で剣道八段取得(全国最年少)。全日本剣道連盟講師要因研修会指導法、審判法にて研修。全日本剣道連盟海外派遣フランスで7か月指導。フランス派遣指導14回。同スペイン1回、ハンガリー2回。雑誌「剣道時代」アドバイザー。と、このような長納先生には、厳しいスケジュールの合間を縫って三木市剣道連盟のために指導に来てくださったわけだ。



日本剣道形の講習で、参加者を相手に分かりやすく示範する長納先生

中でも形を打つ木刀と通常の竹刀の振り方、手の内の違いについて指摘

この日参加した者は誠に幸運だった。さて、この日の研修内容は、まず日本剣道形についての剣道講話に続いて、午前中一本目から七本目までの実技講習を行った。先生の指導は大変わかりやすく射を射ており、礼法の所作から、木刀の構えの高さ、握り方、足の送りなどの基本中の基本を丁寧に解説され、時に自ら示範される。目付、刀の動き、先生の行う力強い形は、気迫がみなぎり、よどみなく、とても美しい。



午後の地稽古で元に立つ長納先生

された。形では、手首を伸ばすような手の内の使い方は間違いで、手首を使わずに切るのが正しいと教えられた。まっすぐな竹刀と日本刀のようには反っている木刀の違いによって打ち方も変えなければならぬと説明された。多くの参加者にとってまさに「目からうろこが落ちる」ような指導であった。

午後は、午前中の日本剣道形の講習の仕上げを行った後、二段から七段の昇段審査の受審者のために模擬審査を行い、それぞれが長納先生から指導を受けた。各段位のレベルに応じて「もっと打つべきだ」「発声は鋭く」「初太刀のメンを決める」「小手・面は打つべきではない」などどアドバイスをいただき、参加者は大いに参考となった。

最後に全員が地稽古で汗を流したが、長納先生に稽古をつけてもらおうと会員が列を作り、充実した稽古となった。